

2026年度 講義要綱

科目	コミュニケーション I	必修 講義	講師	原 功樹
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・クラスを一つの集団とみなし、集団として成長していく過程を体験学習する。 ・社会人としての基礎知識を養う。 ・認定絵本士養成講座科目を学び絵本への理解を深める。(該当科目6コマ) ・就職について 1年前期 1コマ(6月頃9~11回の中に1コマ)ENMAP登録 1年後期 1コマ(11月頃)就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について) 			
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのコミュニケーションスキルを身に付け、同僚性を養う。 ・自己洞察力を養い、学習や実習に活かす。 ・我が国の読書推進活動に関する施策の経緯について理解する。受講者同士の相互理解を深め絵本専門士の役割について確認する。(認定:「オリエンテーション」なかむらしんいちろう) ・相談者の要望に応じた絵本を提案する技術を体得する。絵本の提案の前提となる、絵本に係る情報収集及び整理の方法について理解する。(認定:絵本の世界を広げる技術③(絵本コンシェルジュ術)江花志乃) ・公共図書館の行う児童サービスについて理解する。地域の読書活動推進活動における絵本をめぐる活動の展開を理解する。(認定:「絵本と出会う③」千葉幸) ・絵本の内容及び特質を客観的に捉えることについて理解する、書評及び紹介文の書き方を体得する。(認定:「絵本を紹介する技術②」横山雅代) ・障害者、病児及び高齢者等絵本の選択や紹介にあたり、特に配慮を必要とする人について理解する。(認定:「絵本を紹介する技術③」千葉美香) ・絵本を活用した表現活動について理解する。絵本を活用した表現活動の基礎的技術を体得する。(認定:「絵本の世界を広げる技術②(ワークショップ)」なかむら・加藤ふじこ・やまじひとみ) 			
到達目標1	・認定絵本士養成講座科目を学び、絵本に関する総合的なプロデュース力を身につけることができる。計6コマ	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
到達目標2	・社会人としての必要なコミュニケーションスキルを發揮し、学習や実習に活かすことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度・課題提出 50点	
授業方法	コミュニケーション力を高めるために、レクリエーションゲーム、課題解決学習、ロールプレイ、行事企画等、様々な形の学習を体験する。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション/学校探検/面談シート 2 面談/ワタシのトリセツ 3 面談/コミュニケーションゲーム(はあっというゲーム他) 4 面談/自己分析ゲーム 自分の能力をつける モンスター作る 5 面談/リフレーミング 6 面談/多様性ワーク(木を描く他) 7 クリーン大作戦 8 現場連携週 9 *【就職】①(9~10回の中のどこかに1コマ) ENMAP登録 担当:就職相談室 10 メタ認知(見た目先入観ワーク) 11 人との関わり方(苦手な人との付き合い方ワーク) 12 現場連携 13 ネオチャ祭活動① 14 ネオチャ祭活動② 15 アンガーマネジメント(怒りの裏にある感情) 16 【後期開始】笑顔研修・メイク講座(日美) 17 絵本土 18 ネオチャ祭活動③ 19 チームビルディング 20 確定【認定絵本士養成講座科目】「絵本と出会う③」(図書館等での出会い〜絵本の活用及び地域連携の可能性〜)担当:千葉幸(仮) 21 ネオチャ祭活動④ 22 ネオチャ祭活動⑤ 23 現場連携 24 確定【認定絵本士養成講座科目】:「絵本の世界を広げる技術③」(絵本コンシェルジュ術)担当:江花志乃(仮) 25 確定【就職】② 就活ガイダンス(就活年次までのスケジュール、履歴書、面接について) 担当:就職相談室 26 現場連携週 27 確定【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術③」(支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割) 課題提出 担当:千葉美香(仮) 28 確定【認定絵本士養成講座科目】「絵本のある空間」(絵本のある望ましい空間とは)担当:江花志乃(仮) 29 確定【認定絵本士養成講座科目】「絵本を紹介する技術②」(書評・紹介文の書き方)担当:横山雅代(仮) 30 施設実習前の動画(日本財団等)にじいろのチョーク ・ 体験ワーク →雑談 			
必須テキスト	【認定絵本土科目】認定絵本士養成講座テキスト			
参考文献				
担当教員の専門分野等	<p>【認定絵本士養成講座担当講師】 ○なかむらしんいちろう:講座責任者・絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者 ○千葉美香:障がい者、病児、高齢者、特に配慮を要する人及び当該者向けの絵本に精通した者 ○江花志乃:書店における絵本の売り場づくり、及び、絵本の出版流通に精通した者 ○千葉幸:図書館司書業務と、地域の読書推進活動における絵本をめぐる活動の現状に精通した者 ○横山雅代:書評に関する専門的知識を有する者 ○加藤ふじこ・やまじひとみ:絵本を活用したワークショップの企画及び実践経験を持つ者</p>			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2026年度 講義要綱

科 目	必修 講義	講 師	鈴木 由美	
授業概要	健康で活動的な生涯を送るためには、現代社会における健康問題を正しく理解し、日常生活の中で健康を意識する姿勢が求められる。本授業では、身体に関する基礎的な知識を身につけ、体力の維持・増進に役立つ運動・スポーツを科学的に理解するとともに、運動・スポーツの必要性や意義について学ぶ。さらに、保育の現場で子どもの健康と運動を支えるために必要な視点を養う。			
授業目標	1.現代社会における健康問題について理解する。 2.身体についての基礎的な知識や体力について理解する。 3.子どもの健康や発達における運動の必要性、生涯における運動・スポーツの意義について理解する。			
到達目標1	健康の重要性と身体のしくみについて理解し、体力の維持・増進を図るための方法を説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢<出欠状況、リアクションペーパーなど> (20点)、筆記試験 (30点)	
到達目標2	子どもの健康や発達に対する運動・スポーツの必要性を理解し、生涯にわたる運動・スポーツが健康に果たす役割や意義を説明できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢<出欠状況、リアクションペーパーなど> (20点)、筆記試験 (30点)	
授業方法	対面授業(講義形式を中心にDVD視聴、グループディスカッション、グループワーク、実技体験なども行う。)			
授業計画	1 授業ガイダンス ・授業の目的、内容、すすめ方 ・評価について ・受講にあたって 2 健康、運動・スポーツとは ・健康の概念 ・運動・スポーツとは 3 現代社会と健康 ・健康を取り巻く環境 少子高齢化、環境問題など 4 身体のしくみ ・骨格、筋肉系 ・心肺機能系 ・神経系 5 子どもの身体の発育発達 ・スキヤモンの発育曲線 ・身体の発育発達 6 子どもの運動の発達 ・運動機能の発達 ・精神機能の発達 ・運動遊び 7 これまでの授業の振り返り ・第1回～第6回の振り返り、補足 8 【現場連携週】 子どもたちはどのような運動遊びをしていましたか？ 9 体力と運動 ・体力とは ・ロコモティブシンドローム ・サルコペニア ・フレイル 10 生活習慣について ・睡眠について ・食事について ・自律神経について 11 運動・スポーツとリスクマネジメント ・事故、けがの現状 ・ハインリッヒの法則、ヒヤリハット ・KYTトレーニング 12 【現場連携週】 運動遊びをしている子どもたちに保育者はどのようにかかわっていましたか？ 13 健康を阻害するもの、筆記試験について ・喫煙(タバコの害) ・飲酒(アルコールの害) ・筆記試験の確認 14 筆記試験 ・筆記試験(第1回～第13回のまとめのテスト) 15 授業のまとめ、セルフコンディショニング ・筆記試験の解説 ・授業の振り返り ・自身の身体をケアする方法を学ぶ			
必須テキスト	特になし(適宜プリントを配布する)			
参考文献	必要に応じて授業内で紹介する			
担当教員の専門分野等	専門分野は生涯スポーツ論、スポーツマネジメント、野外教育。社会教育団体や民間でのスポーツやフィットネスの指導経験、健康運動指導士として子どもから高齢者の健康づくり、キャンプディレクター1級として様々な事業の企画運営、大学や専門学校の教員として携わった経験を活かし、運動・スポーツの基本的な理論・技術について指導する。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2026年度 講義要綱

科 目	必修 日本語 講義		講 師	橋本 千鶴
授業概要	人間の言語能力である「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの特徴を理解し、保育者として求められる基礎的な言語能力の向上を目指す。実習や保育現場での対応を想定して、4つの言語能力を具体的な場面から考える。			
授業目標	1.「話すこと」自分の伝えたいことを分かりやすく表現する。 2.「聞くこと」相手の言いたいことを的確に把握する。 3.「書くこと」自分の考えや思いを明確に表現する。 4.「読むこと」書いてある内容を正確に理解し、適切に口頭で表現する。			
到達目標1	自分の考えや思いを、相手意識・目的意識を考えて適切に表現することができる(書く)。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)・課題の評価①小論文(提出必須20点)②観察記録(10点)③連絡帳(5点)・リアクションペーパー(5点) →合計50点	
到達目標2	話し手や書き手の言いたいことを正確に理解し、自分の考えを明確にすることができる(話す・聞く・読む)。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への積極的な取り組み度(10点)・授業内の実技の評価①素話の発表(10点)②話の聞き方(5点)③言葉遊び(10点)④絵本の読み聞かせ(5点)・リアクションペーパー(10点) →合計50点	
授業方法	保育者に必要な4つの言語能力について、グループワーク・ディスカッション等の体験や実技を通して実践的に学ぶ。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・【話】自己紹介・【聞】素話の紹介 2 【書】文字の正しい書き方(平仮名・漢字他) 3 【書】観察記録・実習日誌の書き方 4 【書】連絡帳の書き方 5 【書】原稿用紙の使い方・小論文の書き方 6 【話】保護者への話し方・敬語 7 現場連携 保育課題【子供たちの様子を観察し、印象に残った場面について「観察記録」を簡単に書きましょう。】 8 【話】素話の発表 9 【話】子供と楽しむ言葉遊び(1) 10 【話】子供と楽しむ言葉遊び(2)(模擬保育) 11 現場連携 保育課題【子供と保育者の関わりの中で言葉遊び・わらべうた等があった場合、その場面、内容等を書きしょう。また、それらがなかった場合、保育者が子供に語りかける言葉で印象に残ったものについて、その場面、内容等を書きしょう。】 12 【聞】カウンセリングマインドに基づく話の聞き方(言語的技法・非言語的技法) 13 乳幼児の言葉の発達と言語表現 14 【読】文章の読み方(音読)・【読】絵本の読み聞かせ 15 【読】昔話(解釈と言葉のおもしろさ)・まとめ			
必須テキスト	特になし。			
参考文献	授業で適宜紹介。			
担当教員の専門分野等	小学校教員として長く勤務し、国語・言葉分野を重点的に研究。日本カウンセリング学会認定カウンセラー(カウンセリング心理士)。大学等で、幼児と言葉・保育内容指導法(言葉)・文章表現・言語文化表現・教育相談(カウンセリング)等の授業を担当。「教師・保育者のための教育相談」(共著・萌文書林)を出版。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2026年度 講義要綱

科 目	保育原理 必修 講義	講 師	竹島 孝昭	
授業概要	「保育とは何か」ということについて考える。 自分の考えを持って、保育は誰のためにあり、何のためにあるのか、自分はどんな保育者になりたいか、を考え続けるための授業である。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育の意義及び目的について理解する。 2. 保育に関する法令及び制度を理解する。 3. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。 4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。 5. 保育の現状と課題について理解する。 			
到達目標1	保育は誰のためにあるのか、何のためにあるのかを説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ワークシート(20点) ・期末テスト(30点) 	
到達目標2	保育における「5領域」の内容を自分の言葉で説明できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内提出課題(20点) ・授業内のグループワーク取り組み(30点) 	
授業方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義やグループワーク ・テスト(小論文形式) 			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 子どもの権利と最善の利益 3 保育の理念と保育の基本 4 養護と教育の一体性について 5 保育の内容:3つの視点と5領域 6 5領域への理解を深める 7 保育内容:内容の取扱いと配慮事項 8 現場連携週 9 保育実践から学ぶ 10 保育の計画と記録 11 保育の歴史から学ぶ 12 現場連携週 13 エピソードの検討:保育者の関わりについて 14 これからの保育に向けて 15 期末テスト 			
必須テキスト	保育所保育指針(幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育保育要領)			
参考文献	授業時に紹介			
担当教員の 専門分野等	本校専任講師であり、保育園での実務経験のある教員			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	25 %

2026年度 講義要綱

科 目	教育原理 必修 講義	講 師	日隈 脩一郎	
授業概要	本講義では、教育について原理的に捉え直してみます。「原理的に捉え直す」には、大きく2つの方法があります。一つは、哲学的に考えてみることで、もう一つは、歴史を参照して考えることです。保育、幼児教育に携わる人にとってはもちろん、他人を育て、また、他人から育てられざるを得ない人間一般にとっても避けては通れないことについて、一緒に学び、考えてゆきましょう。			
授業目標	一つの目標は、教育について哲学的に考え続けることに挑戦することです。教育に関わる出来事や概念に関するこれまで通りの「おぼろげ」の見方を一旦外して「本当に?」「どういうこと?」と考え直してみましょう。とはいえ、急には難しいでしょうから、何人かの哲学者・思想家の力を借ります。そうすることで、教育に対する見方を広げたり、悩みや疑問の解消につながったりするかもしれません。			
到達目標1	「学校」「家族」「学び」「発達」「能力」といった概念について、一応の定義を確認するとともに、それらがいかに「やわらかい」概念であるか、他者との協働を踏まえて説明・議論できるようになる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	ペアワーク、グループディスカッションやリフレクションシート、試験の内容を総合的に評価する(50点)	
到達目標2	教育についての考え方、方法や内容、制度が前近代-近代、戦前-戦後、そして現代に至るまでどのような変遷をたどったか、それぞれの時代の具体的な様相・特徴を踏まえて説明できるようになる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	ペアワーク、グループディスカッションやリフレクションシート、試験の内容を総合的に評価する(50点)	
授業方法	教科書の該当箇所を事前に読み、内容をある程度把握したことを前提として講義を進めます。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要 2 子ども教育の遊びと学び 3 子どもが育つ環境——学びをつむぐ豊かな環境とは 4 子どもの発達——発達を支え、促す学びの方法 5 子ども教育者という仕事——ともに学び育つために 6 子ども教育の系譜——子どもはなぜ園・学校に通うのか 7 子どもという存在——子どもはいかに発見されたか 8 子ども教育について考える——先人たちの知恵に学ぼう 9 子ども教育を支える仕組み——豊かな学びを実現するために 10 気になる子の理解と対応——子どもの問題にどう向き合うか 11 子どもの育ちと学びをつなぐ——幼児期から児童期へ 12 これからの社会と子ども教育——どんな大人に育てほしいか 13 講義のまとめと議論 14 15 			
必須テキスト	福元真由美『はじめての子ども教育原理』(有斐閣、2017年)			
参考文献	必要に応じて紹介します。			
担当教員の専門分野等	私はもともと、アンリ・ベルクソンというフランスの哲学者に関心をもっていました。彼は、19世紀の終わりに「心理学は時間概念の扱いがおかしい」という議論をしています。この議論は教育にも深く影響を与えるもので、その後、紆余曲折を経て、最近ではベルクソン哲学を教育の理論、とりわけ歴史教育の理論として読み直すという作業をしています。他にも、理科教育やインクルーシブ教育、性教育の勉強・研究にも関わっています。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	25 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	5 %	主体性 素直 思いやり	5 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	30 %

2026年度 講義要綱

科 目	子ども家庭福祉 必修 講義		講 師	秋山 雅代
授業概要	本授業では、子どもと子どもを取り巻く環境についての基礎的な理解を深め、福祉専門職として子ども・家庭福祉に関する現状と課題を主体的に捉えることを目的とする。ゲスト講師を招聘して、現場の支援者としての役割なども学んでいく。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。 2. 子どもの人権擁護について理解する。 3. 子ども家庭(家族)福祉の制度や実施体系等について理解する。 4. 子ども家庭(家族)福祉の現状と課題について理解する。 5. 子ども家庭(家族)福祉の福祉の展望について理解する。 			
到達目標1	福祉専門職として、現在社会と子ども家庭福祉の現状や課題、福祉制度や福祉サービスの実際、展望について説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業内で行う理解度を確認するための小レポートまたは確認テスト(50点)	
到達目標2	福祉専門職として、子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解し説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業内で行う理解度を確認するための小レポートまたは確認テスト(50点)	
授業方法	パワーポイントやレジュメ、映像資料などを用いた講義形式。			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 子どもや家庭を取り巻く環境の変化(1) 2 子どもや家庭を取り巻く環境の変化(2) 3 子ども家庭福祉の発展過程 4 子ども家庭福祉の制度と法律や実施体制(1) 5 子ども家庭福祉の制度と法律や実施体制(2) 6 子ども家庭福祉の現状と課題(1) 母子保健と子どもの健全育成 7 現場連携週 8 子ども家庭福祉の現状と課題(1) 母子保健と子どもの健全育成 9 子ども家庭福祉の現状と課題(2) 貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応 10 子ども家庭福祉の現状と課題(3) 多様な保育ニーズへの対応① 11 現場連携週 12 子ども家庭福祉の現状と課題(4) DV(ドメスティックバイオレンス)とその防止 13 子ども家庭福祉の現状と課題(5) 子ども虐待とその防止 14 子ども家庭福祉の現状と課題(5) 多様な保育ニーズへの対応② 15 子ども家庭福祉の動向と展望 			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	講義ごとに紹介する			
担当教員の 専門分野等	ソーシャルワーク、社会的養護、多職種多機関連携			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	50 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	10 %

2026年度 講義要綱

科 目	社会福祉		必修 講義	講 師	久利 要子
授業概要	現代における社会福祉の意義と歴史の変遷、相談援助の実際について学ぶ。 子ども家庭支援の視点に立ち、最新動向をふまえて現場の実践に関連づけながら学習する。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解する。 2. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 3. 社会福祉における相談援助について理解する。 4. 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 5. 社会福祉の動向と課題について理解する。 				
到達目標1	1. 子育て家庭の生活課題について、現代の社会状況をふまえて広い視野で考えることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(5点) 現場連携課題等の提出状況(20点) 確認レポート(25点)		
到達目標2	2. 相談援助や利用者保護の仕組みを理解し、社会福祉の今後の展望に自らの関心を向けていくことができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(5点) 現場連携課題等の提出状況(20点) 確認レポート(25点)		
授業方法	講義形式。テキストの内容に関連する最新資料や映像教材なども活用していく。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 初回ガイダンス・社会福祉の理念と概念 2 社会福祉の歴史の変遷 3 子ども家庭支援と社会福祉 4 社会福祉の制度と法体系 5 社会福祉の実施機関 6 社会保障及び関連制度の概要 7 現場連携 8 社会福祉の専門職 9 相談援助の理論 10 相談援助の意義と機能 11 現場連携 12 相談援助の対象と過程 13 相談援助の方法と技術 14 社会福祉における利用者の保護に関わる仕組み 15 今後の展望・学習のまとめ(確認レポート) 				
必須テキスト	『十訂 保育士をめざす人の社会福祉』相澤譲治編、株式会社みらい				
参考文献	『社会福祉小六法2026』ミネルヴァ書房 など(授業中に適宜、紹介します。)				
担当教員の専門分野等	「実務経験のある教員による授業」に該当。 保育士、社会福祉士として母子生活支援施設や高齢者在宅サービスの現場で相談業務を経験し、「ソーシャルワーカーとしての保育士の役割」を研究テーマとしている。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	30 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %	

2026年度 講義要綱

科 目	社会的養護 I		必修 講義	講 師	鴫田 陽介
授業概要	社会的養護に関する基礎的な知識(歴史や法制度など)を学ぶ。 児童虐待についての基本的な考え方や現状などを学ぶ。 要保護児童や被虐待児の特徴やその支援方法について学ぶ。 子どもの権利擁護の歴史の変遷や現在の内容について学ぶ。				
授業目標	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解する。 社会的養護の現状と課題について理解する。				
到達目標1	現代社会における社会的養護の役割と立ち位置を理解し、具体的に説明することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(30点) 講義内容に関する筆記試験(20点)		
到達目標2	社会的養護の現状と現在の課題について、論理的に理解し、説明することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	レポート提出(40点) グループディスカッションへの取り組み度(10点)		
授業方法	講義中心で進めていくが、状況に応じて、事例考察やグループワークなどを取り入れて行っていく。				
授業計画	1 オリエンテーション(授業形式・成績評価について) 社会的養護を学ぶ意味と必要性 2 社会的養護の基本的な考え方や歴史 3 社会的養護に関わる法制度とその歴史 4 児童虐待の種類と現状 5 社会的養護の様々な形態 6 家庭的養護ー里親とはなにか?ー 7 社会的養護施設の現状①ー子どもたちの生活の姿ー 8 現場連携 9 社会的養護施設の現状②ー支援の原理原則ー 10 社会的養護施設の現状③ー愛着障害と発達障害の理解ー 11 社会的養護施設の現状④ー地域連携ー 12 現場連携 13 社会的養護施設の現状⑤ー関係機関との連携ー 14 社会的養護施設の今後の展望 15 テストと授業の振り返り				
必須テキスト	特に指定なし				
参考文献	授業内で紹介します。				
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	20 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	10 %	

2026年度 講義要綱

科 目	保育の心理学 <div style="text-align: right;">必修 講義</div>	講 師	小沢 恵美子	
授業概要	保育所にいる乳幼児期を中心に、子どもの発達について学習する。 今までの自分の経験と授業内容を関連させて、子どもの行動や人間の発達を理解する。			
授業目標	1. 保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。 2. 子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深める。 3. 乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。			
到達目標1	子どもの発達に関する心理学の基本的知識に基づき、子どもの発達について具体的に説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記期試(50%)	
到達目標2	自分が保育者となった時のことを考えながら、子どもや保護者への具体的な対応を述べるができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組みやリアクションペーパー(15%)、レポート(35%)	
授業方法	テキストを使いながら、授業内容をプリントにまとめていく。 可能であれば各自の考えを発表する機会なども設ける。			
授業計画	1 ガイダンス、子どもの発達と環境(テキストP.4～P.12) 2 情緒の発達(テキストP.42～P.46) 3 自我の発達(テキストP.47～P.53) 4 愛着の形成(テキストP.59～P.62) 5 愛着行動と愛着の発達(テキストP.62～P.66) 6 社会的相互作用(テキストP.67～P.70)、認知の発達①(テキストP.92～P.94) 7 認知の発達②(テキストP.96～P.99) 8 現場連携 9 認知の発達③(テキストP.100～P.102) 10 コミュニケーションの発達(テキストP.104～P.111) 11 乳幼児期の学びにかかわる理論(テキストP.127～P.132) 12 現場連携 13 動機づけ(テキストP.133～P.136)、遊びの分類(テキストP.139～P.140) 14 発達障がいについて(プリント配布) 15 全体のまとめ			
必須テキスト	『保育の心理学 実践につなげる、子どもの発達理解』井戸ゆかり編著、萌文書林			
参考文献	授業中に適宜紹介します。			
担当教員の専門分野等	発達心理学や教育心理学の授業を担当してきました。発達心理学でも「子ども(幼児期)」の分野に興味があります。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	15 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %

2026年度 講義要綱

科 目	子どもの理解と援助 必修 講義		講 師	鴫田 陽介
授業概要	様々な児童福祉施設で生活する子ども達の様子、現状を学ぶ中で、子どもの「発達」を捉える視点を養う。子どもの健やかな発達に必要な「環境」と「関わり」について理解を深め、その担い手になるための準備を進める。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実践において、実態に応じた子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 3. 子どもを理解するための具体的な方法を理解する。 4. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本について理解する 			
到達目標1	子どもの育ちを支える児童福祉施設について、主要施設の概要や現状について説明できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関する筆記試験(40点)	
到達目標2	子どもの育ちを支える児童福祉施設への興味を養い、担い手となる自分をイメージし、自らに必要な準備を進めることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、講義内容に関するレポート試験(40点)	
授業方法	ワークシートを用いた講義			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション:「子どもの理解とは？」(授業概要・目標・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちを支える現場を知る 3 子どもの育ちを支える現場①:乳児院 4 子どもの育ちを支えるために必要なこと①:乳児院の現場から 5 子どもの育ちを支える現場②:児童養護施設 6 子どもの育ちを支えるために必要なこと②:児童養護施設の現場から 7 子どもの育ちを支える現場③:母子生活支援施設 8 現場連携週 9 子どもの育ちを支えるために必要なこと③:母子生活支援施設の現場から 10 子どもの育ちを支える現場④:障害児入所施設 11 子どもの育ちを支える現場⑤:障害児通所施設 12 現場連携週 13 生涯にわたる支援の現場:障害者入所施設/通所施設 14 「理解と援助」のために:障害者支援施設の現場から 15 学期末試験 			
必須テキスト				
参考文献	授業中に適宜紹介する			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	20 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2026年度 講義要綱

科 目	子どもの保健 必修 講義	講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康の定義や保健の意義を理解する。 2. 子どもの生理解剖および機能を学び、子どもの健康維持に必要な身体的知識を理解する。 3. 子どもの心身の発達について基礎的な知識を理解する。		
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。		
到達目標1	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解できる。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解できる。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	筆記試験50点
到達目標2	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解できる。 2. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	提出物(課題、リアクションペーパーなど)40点 授業参加態度(授業態度やグループワーク参加態度など)10点
授業方法	1. パワーポイントや図、グループワークなども取り入れ、内容の理解につなげ、学生と考えながら学ぶ授業構成とする。 2. 保育士、保護者、児などのあらゆる立場から健康を理解するような方法を取り入れる。 3. 興味を持ちながら更に理解できるように看護師及び子育ての体験談、社会報道の紹介等の工夫を行う。		
授業計画	1 ・心身の健康の定義と保健の意義、学ぶ必要性を理解する。 ・自己紹介 2 ・母体の妊娠～出産までの経過および、新生児の特徴を学び理解する。 ・胎児期～出生時の障害児を学ぶ。 3 ・体のつくりを知る ・臓器などの働きを知る 4 ・身体発育・運動機能発育の特徴を学び、理解する。 ・脳神経系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・脳、神経、原始反射など。 5 ・子どもが病気になった時、体調不良の表現方法や知らせ方など子どもならではの特徴を学び、理解する。 ・循環器系の生理的機能と発達および疾患 ・心臓、血管、血液、脈拍、血圧など。 6 ・呼吸器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・肺、呼吸のしくみ、上気道炎、SIDSなど。 7 ・消化器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・胃、腸、胃腸炎、下痢など。 8 課題を提出する 9 ・睡眠とホルモンの関係を知る ・成長と睡眠の大切さを知る 10 ・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。 11 ・感覚器系の生理的機能と発達および疾患について学ぶ。 ・目、鼻、口、耳、触覚などの感覚器。 12 課題を提出する 13 ・悪性腫瘍、障害など。 14 ・院内保育、病棟保育士など 15 定期試験		
必須テキスト	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版		
参考文献	授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布。		

<p>担当教員の 専門分野等</p>	<p>国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科など)。 取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。 出産後、小児科クリニック看護師業務。 看護業務と共に、大学、短大など兼任講師を行う。 テキスト『子どもの保健と安全・第5章』執筆。 女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。 子育て支援コミュニティ「KiraKira」発行。母子支援NPO「SKIP」を設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。</p>			
<p>この授業で 身につく 「6つの力」</p>	<p>職業に対する理解</p>	<p>10 %</p>	<p>社会の動きに関心を持ち 学び続ける力</p>	<p>5 %</p>
	<p>社会人としての基本</p>	<p>5 %</p>	<p>主体性 素直 思いやり</p>	<p>10 %</p>
	<p>他者と関わる力</p>	<p>10 %</p>	<p>専門的知識・技術</p>	<p>60 %</p>

2026年度 講義要綱

科 目	子どもの食と栄養 必修 講義	講 師	伊藤 僚子	
授業概要	1. 栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達に必要な栄養について学ぶ。 2. 食の安全、アレルギーや体調不良の時の食、障がいのある子どもの食と栄養についても学習する。			
授業目標	本講義で栄養学を専門的に学び、「教育・保育の実践的な活動に不可欠な専門的知識や技能を修得する」のが目標である。 また、本講義では栄養学に加えて食育も学ぶ。「食べ物はすべて命あるものであること、そして自らの命が他の命により支えられていること」を理解し、生命の大切さを教育的指導者の立場で語れるようになるのが目標である。			
到達目標1	栄養の基礎的な知識を身に付け、栄養素の働きについて説明できる。 栄養バランスの取れた食事とはどのようなものか、具体的に説明できる。 乳幼児期に必要な栄養について理解し、成長期に必要な食事について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験 (50点)	
到達目標2	私たちの食料がどこでどのように作られているのか、演習をとおしてグローバルな視点で理解できる。 食育の計画を立てることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワーク課題 (20点) 定期試験 (30点)	
授業方法	講義および演習を行う。必要に応じて視聴覚教材も使用する。			
授業計画	1 ガイダンス ヒトにとって食とは何か 命の食べ方 2 栄養に関する基本的知識① 栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能 3 栄養に関する基本的知識② 消化と吸収、栄養素の代謝 4 栄養に関する基本的知識③ 栄養バランスのとれた食事、調理の基本 5 発育・発達と食生活① 小児期の発育と発達、妊娠・授乳期の栄養 6 発育・発達と食生活③ 幼児期・学童期の食生活 7 発育・発達と食生活② 乳児期の栄養(乳汁栄養・離乳栄養) 8 産学連携 9 子どもを取り巻くの問題: 孤食、肥満 10 演習: 食べ物の来し方 フードマイレージ 11 食の安全(食中毒) 12 産学連携 13 特別な配慮を要する子どもの食と栄養① 体調不良およびアレルギーの子どもへの対応 14 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 食物アレルギーのある子ども 15 特別な配慮を要する子どもの食と栄養② 障がいのある子どもへの対応 子どもを取り巻くの問題: 孤食、肥満			
必須テキスト	森脇千夏 他著 イラスト子どもの食と栄養 東京教学社 2026			
参考文献				
担当教員の 専門分野等	管理栄養士で専門分野は公衆衛生学、公衆栄養学(栄養を通じた社会の健康づくり) 青年海外協力隊員としてインドネシアの保健所の母子保健課で仕事をした経験を持つ。 現在は、非常勤講師として複数の大学、専門学校で教える傍ら、 管理栄養士として企業に出向き、生活習慣病予防の保健指導を行っている。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %

2026年度 講義要綱

科目	保育の計画と評価 必修 講義	講師	村山 久美	
授業概要	保育における計画の意義・目的を学ぶ 子ども理解を基に保育過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)を学ぶ 指導計画の実際について学ぶ			
授業目標	1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 2. 全体的な計画と指導計画の作成について、その意義と方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)について、その全体構造を捉え、理解する。			
到達目標1	質の高い保育実践のための保育の計画及び評価について理解することができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 講義内容に関する筆記課題(30点)	
到達目標2	全体的な計画と指導計画について、意義と方法を理解し、作成することができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(20点) 計画の作成(30点)	
授業方法	講義形式、指導計画の作成・発表(ICTの活用、協働学習を含む)			
授業計画	1 オリエンテーション 保育の目標と計画の考え方 2 保育におけるカリキュラムとは 3 子ども理解に基づくPDCAサイクルの循環 4 全体的な計画とは 5 長期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 6 長期的な指導計画の作成(3歳以上児) 7 短期的な指導計画の作成(0・1・2歳児) 8 現場連携集 課題「子どもが主体的に活動できる(子どもがやりたいことを見つけ、活動できる)保育環境の工夫をみることができましたか。また、それは具体的にどのようなものであったかを教えてください。」 9 現場連携振り返り 短期的な指導計画の作成(3歳以上児) 10 指導計画作成の留意事項① 11 指導計画作成の留意事項② 12 現場連携週 課題「子どもの主体性を尊重していると感じる保育者の関わりをみてみることができましたか。またそう感じた場面のエピソードを教えてください。」 13 現場連携振り返り 指導計画に基づく保育の展開 14 保育の記録と省察、評価と改善、まとめ 15 試験 「部分実習指導計画の作成」			
必須テキスト	『保育の計画と評価演習ブック』ミネルヴァ書房			
参考文献	『スラスラ書けるコツを伝授！保育実習の日記・指導案 書き方まるわかりBOOK』ナツメ社 『保育所保育指針』			
担当教員の専門分野等	実務経験のある教員による授業。保育所園長歴10年。「言葉」「子育て支援」「実習指導」を専門に研究。研究実績あり。『スラスラ書けるコツを伝授！保育実習の日記・指導案 書き方まるわかりBOOK』ナツメ社、『子どもの理解と援助』一藝社、第3章執筆。『子どもの文化』共感共鳴共有すること、『あそびと環境0・1・2歳 12月号』連絡帳の書き方講座(P.38~41) gakken執筆。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	40 %

2026年度 講義要綱

科 目	保育内容総論 必修 講義	講 師	戸田 真	
授業概要	この科目では、保育内容を総合的に捉える視点を養い、実際の保育現場の事例を通して保育内容について理解を深めます。授業を通して様々な保育知識や価値観に触れ、自分の保育観の基礎を考えていきます。			
授業目標	1. 多様な保育者像、環境、考え方と出会うことによって、自分なりの保育者像、環境イメージを持つ。 2. 共同作業の経験を重ねることによって、人と協力的な関係を気づく力を養う。 3. 子どもの発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開を知る。			
到達目標1	子ども発達や実態を知り、それらに応じた具体的な保育の展開を知ることで自分なりの保育士像を持つことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	レポート→25点 テスト→25点	
到達目標2	ディスカッション等の経験を重ねることによって他者との関わる力を身につけることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	討論貢献→25点 意欲態度→25点	
授業方法	講義・ディスカッション・個人ワーク・グループワーク			
授業計画	1 保育のイメージ 保育園における養護と教育とは何か考える 2 環境について 人的環境・物的環境を考える 3 子どもの道徳理解について考える 4 子どもの自制心について考える 5 保育園の保護者支援について 6 いのちについて 7 保育園における伝統行事 8 産学連携 9 友達同士の関わりで学ぶものとは 10 保育の中の選択とは 11 保育園の食育・リスク管理について 12 産学連携 13 子どもの権利条約について考える。 14 自分の保育感を考える 15 試験			
必須テキスト				
参考文献				
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。 幼稚園9年、保育園10年勤務 現在主任として勤務、第三者評価員として評価機関に所属。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	40 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	10 %

2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・身体表現遊びⅠ	必修 講義	講 師	遠藤 祐太郎
授業概要	子ども達に運動遊びの楽しさ、大切さを学び、実際に運動遊びを体験する。 子どもたちの表現と運動に関する知識を身に付ける。 月齢や乳幼児に発達に合わせ、環境構成に設定を意識し展開するための技術を学ぶ。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	子どもの運動、表現遊びについての基礎知識を説明し、実践できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み度(20点) 講義内容に関するレポート(30点)	
到達目標2	子どもの発育発達に沿った運動遊びについて理解し、実践できる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループワークでの貢献度(20点) 実践発表(30点)	
授業方法	保育現場でどのような運動遊びが求められているか、実践を通し考えを深めていく。 体育教室、戸外にて実際に身体を動かす運動遊びを実技形式で行う。 幼児体育の意義、保育者の役割を知り、発達に応じた運動遊び計画をグループで話し合いながら、作成し、発表を体験する。			
授業計画	1 オリエンテーション 乳幼児期に必要なあそび 2 からだを使った運動あそび 3 身体表現、リズム遊び 4 ボール遊び、フラフープ遊び 5 運動、リズム遊び 6 運動、リズム遊び② 7 産学連携 8 遊びの振り返り 9 運動遊び発表準備 10 運動遊び発表準備 11 産学連携 12 運動遊び発表① 13 運動遊び発表② 14 運動遊び発表③ 15 全てのまとめ、振り返り			
必須テキスト	特になし			
参考文献				
担当教員の専門分野等	保育園、学童に勤務し、海外の保育園でも勤務経験あり。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	30 %

2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・音楽遊び I		必修 講義	講 師	浦 啓子、佐藤 季里、杉橋 祥子、竹田 えり
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。歌遊びのグループレッスンを45分、ピアノ等の個人レッスンを45分、グループ分けに従って教室を移動して受講する。				
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。				
到達目標1	・教科書に沿って鍵盤楽器(ピアノ等)の基礎を学びつつ自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨むことが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)		
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)		
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンをを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。				
授業計画	<p>1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A) (B)2グループに分かれて45分で入れ替わる)</p> <p>2 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。</p> <p>3 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。)</p> <p>4 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法)</p> <p>5 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。</p> <p>6 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)童謡・唱歌等の子どもの歌の演習</p> <p>7 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)わらべ歌・手遊び歌の演習</p> <p>8 産学連携第8週課題:手遊びやわらべ歌、リズム遊びや子どもの歌等、音楽遊びは現場でどのように活用されていましたか?またピアノやリズム楽器、その他の音楽遊びの環境はどのように設定されていたか、教えてください。</p> <p>9 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ)</p> <p>10 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)リトミックを含む歌遊びの演習</p> <p>11 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。</p> <p>12 産学連携第12週目課題:保育者が子どもの歌やリズム遊び、わらべ歌等を用いて子どもたちと関わるシーンがありましたか?その働きかけによって子どもたちの心や行動はどのように変化しましたか?感じたことを教えてください。また、そのようなシーンに出会わなかった方は、自分が取り扱いたい曲名1曲と、どんな時に、どんなねらいで用いたいかを書きましょう。</p> <p>13 (A)ピアノ等による個人レッスン/(B)個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。</p> <p>14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A) (B)共)</p> <p>15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A)(B)共)</p>				
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子』教育芸術社				
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編				
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リトミック指導。				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %	
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %	

2026年度 講義要綱

科 目	保育内容の理解と方法・造形遊び I		必修 講義	講 師	目黒 祥元
授業概要	造形遊びを楽しみながら子供の頃の感覚をしばし取り戻し、実習を通して基礎技能を体験し、保育における造形遊びの意味や本質について学んでゆく				
授業目標	遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する				
到達目標1	幼児造形で使用する画材を理解し、モダンテクニックなど基礎技法が実践できるようになる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	取り組み方と課題の提出状況(40点) 提出課題の評価(10点)		
到達目標2	モダンテクニックを使った造形遊びができるようになる 展示などもアイデアを出して取り組むことができるようになる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	準備から片付けまで、造形遊びのの展開を考えて必要な配慮が来ている(40点) 壁面装飾においても主体的に参加している(10点)		
授業方法	<p>造形遊びの課題を設定して造形制作の実習を行います 課題制作は、授業時間内に行い、持ち帰りの制作は原則認めません 課題作品は、必ず授業内に提出してください、採点資料になります また、提出された作品は校内の壁面装飾にも使用します。</p> <p>*状況により授業内容を変更する場合があります</p>				
授業計画	<p>1 授業の進め方、用具、画材、課題の提出方法などについて説明します そのあと、紙工作をして、まずは造形遊びを体験します</p> <p>2 水彩絵の具をつかって色彩の基礎を学ぶ</p> <p>3 ドロッピング、吹き散らし</p> <p>4 デカルコマニー</p> <p>5 ビー玉転がし 糸引き絵</p> <p>6 フロッタージュ</p> <p>7 窓のある絵 貼り絵</p> <p>8 課題が出るので提出</p> <p>9 版を作る</p> <p>10 インキを使用しない紙版画</p> <p>11 スクラッチ</p> <p>12 課題が出るので提出</p> <p>13 コップを使った紙人形</p> <p>14 粘土で自由制作</p> <p>15 粘土で自由制作</p>				
必須テキスト	特に指定しない				
参考文献	幼児造形に限らず、美術全般に幅広く関心を持ってもらいたい				
担当教員の 専門分野等	美術家 本校においては、資格試験の実技指導に当たる				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	5 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	5 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %	

2026年度 講義要綱

科 目	乳児保育 I	必修 講義	講 師	廣瀬 優貴
授業概要	乳児保育の意義、目的、歴史、役割等の基本を学び、乳児の成長、発達のプロセスを学習します。			
授業目標	1.乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割について理解する。 2.保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 3.3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 4.乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。			※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。
到達目標1	乳児保育の意義や目的、歴史などの基本的な知識を理解し、乳児保育の役割について説明できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	小テスト(30点)・リアクションペーパー(20点)	
到達目標2	乳児の成長や発達のプロセスについて理解し、発達の特徴を踏まえながら保育の中での子どもの姿や関わりについて理解する。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	発達表の作成(40点)・授業への積極的な取り組み度(10点)	
授業方法				
授業計画	1 オリエンテーション(授業概要・目標・評価他)・乳児保育の目的と役割 2 乳児保育の基本 3 0, 1, 2歳児の発達 4 乳児(0歳児)の保育内容 ・小テスト 5 1歳以上3歳未満児の保育の内容 6 乳児の生活と遊びの基本的事項 7 現場連携 8 乳児の生活の基本 9 乳児の遊び①・小テスト 10 乳児の遊び② 11 現場連携 12 乳児保育の環境構成 13 乳児保育における全体的な計画 14 乳児における子育て支援(発達表の提出) 15 乳児における連携・まとめ ☆補講週に行う			
必須テキスト	『講義で学ぶ乳児保育』小山朝子 編著 亀崎美沙子 善本真弓			
参考文献				
担当教員の専門分野等				
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	30%	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10%
	社会人としての基本	10%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	10%	専門的知識・技術	30%

2026年度 講義要綱

科 目	子どもの健康と安全		必修 講義	講 師	竹内 麻貴
授業概要	1. 子どもの健康や安全を守る定義や意義を理解する。 2. 子ども生命維持に必要な知識を学び理解する。 3. 子どもの安全について基礎的な知識を理解し、具体的な対策等を考慮することができる。				
授業目標	1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する。 2. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に理解する。 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する。 4. 関連するガイドライン(※)や近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に理解する。 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドライン(※)や近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する。 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する。 ※「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」(平成23年3月、厚生労働省)、「2018年改訂版 保育所における感染症対策ガイドライン」(平成30年3月、厚生労働省)、「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」(平成28年3月、内閣府・文部科学省・厚生労働省)等				
到達目標1	「子どもの保健」で学んだ総合的に保育することを踏まえ、子どもの健康保持や安全維持するために必要な知識を理解し深めることができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	定期試験(50%)		
到達目標2	保育現場や保育活動を行う場面を想定し、具体的な安全対策が行える。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	・授業参加態度(演習態度5%、授業態度5%) ・提出物(課題など)(40%) 合計50%		
授業方法	・講義、演習、グループワーク等、授業内容にそった授業形式とする。 ・実際に起こった事故の検証、 ・子どもに起こりやすい事故の演習、 ・ポスターやマニュアルを作成 などを通して事故予防の重要性を学ぶ。				
授業計画	1 必要性の理解、オリエンテーション 子どもの健康の維持と安全管理の必要性を考え、理解する。 2 子どもの多い体調不良やけがについて① 子どもが体調不良を起こす原因、発生状況を知る。また予防法も理解する。 3 子どもの多い体調不良やけがについて② 子どもが体調不良を起こしたときの観察点や応急処置の基本を学び、理解する。 4 保育室内の危険について① 事故予防について学ぶ。 5 保育室内の危険について② けがや事故が発生しやすい箇所を見つけ、どんなけがが予測できるか、またその予防策を考える。 6 災害対策について① 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 7 現場連携 課題を提出する 8 災害対策について② 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。ポスター作成 9 災害対策について③ 自然災害、天災などの災害と、引き起こる二次災害に備える方法や訓練法を知る。 10 防犯について① ・誘拐や事件の予防について学ぶ。 11 現場連携 課題を提出する 12 防犯について② ・誘拐や事件の予防について学ぶ。 13 事例検討① 実際に起こった事故を通して考えるグループワークを行う。 14 総復習 授業全体をふりかえる。 15 筆記定期試験を行う。				
必須テキスト	『新基本保育士シリーズ⑩子どもの健康と安全』松田博雄、中央法規				
参考文献	『子どもの保健と安全』高内正子、教育情報出版 授業中に紹介および適宜プリントや資料を配布				
担当教員の 専門分野等	国立行政機構京都医療センターにて看護師勤務。(産婦人科、外科、呼吸器科など)。取得資格・・・看護師、介護福祉士、ケアマネージャー、医療的ケア教員資格取得。出産後、小児科クリニック看護師業務と同時に、女性の家事・育児と言う視点で国際女性会議にて講演を行う。母子支援NPOを設立。託児付きクラシックコンサート企画運営、子育て本出版、TV出演等の活動を行う。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	50 %	

2026年度 講義要綱

科 目	社会的養護Ⅱ 必修 講義		講 師	鴫田 陽介
授業概要	社会的養護における具体的な支援内容を学ぶ。 支援の基盤となる支援計画の作成方法を学び、実践する。 自身の価値観や考え方の傾向について演習を通して理解を深める。			
授業目標	社会的養護における支援計画及び具体的な支援方法について理解する。 自身の性格や傾向を知り、専門職としての意識を高める。			
到達目標1	社会的養護の具体的な支援方法を理解した上で、施設 実習に挑む心構えを作る事ができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み(30点) 筆記試験(20点)	
到達目標2	保育士の社会的意義を理解して、どのような役割を持っ ているかを理解し、就職後の心構えを作ることができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業ごとのレポート(40点) ディスカッションへの参加態度(10点)	
授業方法	個人・グループでの演習を多く取り入れ、主体的な参加型の授業を行う。 授業内容を踏まえた社会的養護に関するテーマでレポートを作成する。			
授業計画	1 オリエンテーション(授業方法や成績評価)／社会的養護Ⅰの復習 2 社会的養護施設の子どもたちへの理解 3 子どもの権利 4 生活支援と治療的支援 5 自立支援とアフターケア 6 子どもと向き合うということ 7 現場連携 8 社会的養護を必要とする親子への理解 9 愛着障害児への理解と支援方法 10 情報収集とアセスメント 11 現場連携 12 自立支援計画の作成 13 ケーススタディ 14 社会的養護の教科の振り返りと今後の展望 15 テストと授業の振り返り			
必須テキスト	特に指定なし			
参考文献	授業内において紹介。			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業に該当。児童養護施設・発達障害児支援施設での経験あり。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	10 %
	他者と関わる力	20 %	専門的知識・技術	20 %

2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I a 必修 講義	講 師	遠藤 祐太郎	
授業概要	保育所実習を有意義なものにするために、実習日誌の書き方を身につけるとともに、実習に向けた具体的な準備を進める。あわせて、実技の基礎的な練習や実習に臨む際の心構えを養い、実習で必要となる知識と技能を学ぶ。			
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2. 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3. 既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に理解する 4. 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5. 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 			
到達目標1	保育所実習に必要な知識を身に付け、実習日誌が記入できる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業課題提出(30点)、筆記試験(日誌一日分)20点	
到達目標2	保育所実習に臨む実習生としての態度や保育技術を身に付けることができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	手遊び、絵本読み聞かせ発表(20点)、指導案提出物(15点)、保育教材提出(15点)	
授業方法	講義、発表、グループワークなど			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 保育実習の概要 実習 I 授業ルール 2 実習の目的と実習の種類 3 ゲスト講師を招いて講義を聞き保育実習へのイメージを具体的にもつ 4 実習記録を記入する意味 保育士倫理綱領 5 実習生の健康管理と安全管理 6 実習課題作成 7 現場連携 8 実習に伴う書類作成 事務手続きの確認 9 オリエンテーション 10 実習の心得 11 現場連携 12 部分実習 13 試験 14 手遊び・読み聞かせポイント 発表 15 最終確認 <p>※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります</p>			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー(萌文書林)			
参考文献				
担当教員の 専門分野等	幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育所での実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20%	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10%
	社会人としての基本	20%	主体性 素直 思いやり	10%
	他者と関わる力	20%	専門的知識・技術	20%

2026年度 講義要綱

科 目	保育実習指導 I b		必修 講義	講 師	鴫田 陽介
授業概要	様々な施設の現場に立ち、対象者との関わりを通して学ぶ「施設実習」を行う際に必要となる知識や視点を養い、「施設実習」で得る貴重な経験を、より有意義な学びとできるよう、具体的な準備を進める。				
授業目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの実習の課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、今後の学習に向けた課題や 目標を明確にする。 				
到達目標1	講義内容を理解し、要点をまとめ、自らの考えを文章として記すことができる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	講義内容に関するノート提出(60点)		
到達目標2	実習に臨むにあたり、目的意識や自らの課題を具体的に記すことができる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	授業への取り組み姿勢(20点)、実習目標の作成(20点)		
授業方法	ノート作成を伴う講義受講				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション(授業概要・目標・方法・評価・持物等の説明) 2 子どもの育ちの理解①:愛着障害(1) 3 子どもの育ちの理解②:愛着障害(2) 4 関わりの技術①:実際の実習より(ロールプレイ) 5 関わりの技術②:「視点」を養う 6 子どもの育ちの理解③:発達障害 7 現場連携 8 関わりの技術③:療育場面より 9 施設実習先の発表 10 施設実習への具体的準備①:個人票作成、オリエンテーション準備 11 現場連携 12 施設実習への具体的準備②:実習目標の作成(1) 13 施設実習への具体的準備③:実習目標の作成(2) 14 実習日誌の理解と練習 15 施設実習への具体的準備:実習前/実習中/実習後にすること 				
必須テキスト	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する				
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業。児童養護施設・発達障害児支援施設での勤務経験あり。				
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心を持ち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	25 %	主体性 素直 思いやり	20 %	
	他者と関わる力	25 %	専門的知識・技術	10 %	

2026年度 講義要綱

科 目	子どもと保育 選択必修 講義		講 師	遠藤 祐太郎
授業概要	保育の本質、目的、意義を実践的に学ぶ。 実習生としての基礎知識、技量を身につけ、実習への準備をすすめながら、実習への期待を持つ。			
授業目標	保育所の基本的な事柄を学び、実習について準備を進める。 実習生として必要な力を理解し、保育者の基本的なスキルを身に付ける。			
到達目標1	保育所の役割、流れ、基本的なルールについて理解できる	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	授業ワークシート:20点 授業課題提出:20点 グループワークへの取り組み:10点	
到達目標2	実習生として必要な力を理解、習得し、実践できる	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	報告、連絡、相談:30点 発表取り組み:20点	
授業方法	講義、実技、個人ワーク、グループワーク、ワークシートの記入、授業内で配布されたファイル・資料を使用する			
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 「オリエンテーション」実習授業のルールと実習について／保育施設で求められること、実習生に必要な力 2 保育現場からのメッセージ／基礎国語力 3 保育を考える／保育教材について・スケッチブックシアター① 4 保育の方法／スケッチブックシアター②・JTP 5 保育者としての自分／社会のマナー 6 保育所のルール／手遊び・絵本調べ 7 現場連携準備・観察の視点①／5w1hの基本 8 現場連携週 9 現場連携振り返り・実習日誌①／エプロン作成 10 実習ICT／スケッチブックシアター③ 11 現場連携準備・観察の視点②／保育園のマナー 12 現場連携週 13 現場連携振り返り・実習日誌②／スケッチブックシアター④ 14 スケッチブックシアター発表 15 実習指導1aに向けて授業の振り返り 			
必須テキスト	千春と大吾の保育実習ストーリー (萌文書林)			
参考文献	なし			
担当教員の 専門分野等	実務経験のある教員による授業 幼稚園教諭及び保育士資格を持ち、幼稚園または保育士としての実務経験がある教員が、その経験に基づいた指導を行う科目である。			
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	20 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	20 %	主体性 素直 思いやり	20 %
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	20 %

2026年度 講義要綱

科目	選択必修 保育内容の理解と方法・音楽遊びⅡ 講義	講師	上田 亜津子、大須賀 かおり、金淵 洋子、木 下 裕子、高橋 裕希子、 渡辺 容子	
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境にも目を向け、子どもの生活と遊びを豊かに展開するための音楽表現の基礎を学び、感じたことや考えたことを自主的に表現できる力を養う。コードネームによる簡易伴奏の仕組みを知り、まずハ長調の曲で演習していく。15回目の実技試験課題はピアノ曲1曲、子どもの歌1曲の弾き歌いを演奏する。自身のスキルに合わせた曲目選択は担当講師とよく検討し決定すること。			
授業目標	1. 子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な音楽的知識や技術を実践的に習得する。 2. 保育現場で活用できる教材を中心に、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。			
到達目標1	教科書や「はじめての弾き歌い」のハ長調のコードネームによる弾き歌い等について自主練習を行い、予習復習したうえで個人レッスンに臨み、子どもたちへの視点を持った弾き歌いが出来る。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	個人レッスンと自主練習への取り組み度(20点)、実技試験発表(30点)	
到達目標2	様々な子どもの歌を演習し互いに聞き合い、環境、生活、人間関係等のそれぞれの歌のねらいを知り、自信を持って伝えたいことが表現出来る。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	グループ演習への積極的参加度(20点)、実技試験発表(30点)	
授業方法	クラスを2つのグループに分け、45分ずつ教室を入れ替わり、ピアノを中心とした個人レッスンと歌遊びのグループレッスンとを行う。グループ分けは学生ポータルで発表されるので、各自確認すること。			
授業計画	1 前・後半に分かれて各教室でのオリエンテーション。(A B2グループに分かれて45分で入れ替わる) 2 Aピアノ等による個人レッスン/B歌遊びのグループレッスン。以下の項目について学生の状況に合わせて複合的に盛り込み進めていく。 3 Aピアノ等による個人レッスン/B保育士に必要な音楽基礎知識(五線紙は授業内で配布する。) 4 Aピアノ等による個人レッスン/B現場で役立つ声の出し方(呼吸法・発声法) 5 Aピアノ等による個人レッスン/B子どもの歌の持つ役割や意義を考察する。 6 Aピアノ等による個人レッスン/B童謡・唱歌等の子どもの歌の演習 7 後期産学連携第7週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、音楽遊びを園生活の中で必要に応じて展開する際、保育者はどんなことに気を付けたらよいか、考えを教えてください。 8 Aピアノ等による個人レッスン/Bわらべ歌・手遊び歌の演習 9 Aピアノ等による個人レッスン/B簡単な2声のハーモニー(共働作業を楽しむ) 10 Aピアノ等による個人レッスン/Bリリックを含む歌遊びの演習 11 後期産学連携第11週課題:今回は、保育者が手遊びやリズム遊び、音楽遊び等で子どもたちと関わる姿は見られましたか?そこにはどのようなねらいと効果が見られたか、教えてください。また、そのような場面に出会わなかった方は、11月ならどんな歌遊びを、どんな展開で子どもたちと楽しみたいか、対象年齢も決めた上で教えてください。 12 Aピアノ等による個人レッスン/B互いに聞き合い、協力してより良い表現を目指す。 13 Aピアノ等による個人レッスン/B個人レッスンによる苦手克服のためのアドバイス。 14 実技試験に向けてのリハーサルと個別指導 (A B共) 15 実技試験(発表会)と各自の振り返り(A B共)			
必須テキスト	『現場で役立つ幼稚園教諭・保育士の為のピアノ入門』ドレミ出版 『ポケットいっぱいの子の歌』教育芸術社			
参考文献	『はじめての弾き歌い』日本児童教育専門学校編			
担当教員の専門分野等	専任:木下裕子 東京藝術大学卒業。公財日本オペラ振興会育成部第6期修了。声楽、ピアノ、合唱指導、リリック指導。			
この授業で身につく「6つの力」	職業に対する理解	10 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	15 %
	他者と関わる力	15 %	専門的知識・技術	40 %

2026年度 講義要綱

科目	乳児保育Ⅱ		必修 講義	講師	廣瀬 優貴
授業概要	3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた保育の方法や援助・関わりを実技を通して学ぶ				
授業目標	1, 3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりの方針について理解する。 2, 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3, 乳児保育における配慮の実践について、具体的に理解する。 4, 上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは0～3歳未満児を念頭においた保育を示す。				
到達目標1	座学の学びを踏まえて、実技を適切に取り組むことができる。	到達目標1に対する評価 (方法及び配点)	実技(40点)授業に対する取り組み(10点)		
到達目標2	3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえ、年齢にあった玩具や遊びについて理解することができる。	到達目標2に対する評価 (方法及び配点)	課題(20点)毎回のリアクションペーパー(30点)		
授業方法	座学と実技を交えた授業。				
授業計画	1 オリエンテーション、乳児保育Ⅰの復習 2 食事の援助と環境 3 食事の援助と環境(実技) 4 排泄の援助と環境 5 排泄の援助と環境(実技) 6 睡眠・休息の援助と環境 7 現場連携 8 着脱に関する援助と環境 9 着脱に関する援助と環境(実技) 10 清潔に関する援助と環境 11 現場連携 12 清潔に関する援助と環境 13 乳児における健康と安全 14 乳児の遊び 15 乳児保育における計画と評価				
必須テキスト	善本真弓・編著 小山朝子・亀崎美沙子『演習で学ぶ 乳児保育』わかば社				
参考文献	厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館				
担当教員の 専門分野等					
この授業で 身につく 「6つの力」	職業に対する理解	30 %	社会の動きに関心をもち 学び続ける力	10 %	
	社会人としての基本	10 %	主体性 素直 思いやり	10 %	
	他者と関わる力	10 %	専門的知識・技術	30 %	